

竜泊ラインを観光資源として活用した観光振興を図ることを目的に、竜泊ラインウオークが6月11日(日)道の駅こどもり「ポントマリ」で行われ、町内外から約300人が参加しました。今年は、鳥瞰台からポントマリを目指すコースと、ポントマリから坂本台を目指す2つのコースで行われました。

開会式には町イメージキャラクターの米ケル、イカリん、米ケル Jr.がかけつけ、一緒にラジオ体操を行い、体をほぐしました。参加者らは、竜泊ラインの絶景に時折足を止めながら、それぞれのゴールを目指して歩きました。途中、別コースの参加者とすれ違つと、手を振つたり「あと少し、がんばろー」と声を掛け合つたりしていました。



ゴール後はつみれ汁、おにぎり、イカ焼きが振る舞われ、ウオークの疲れを癒しました。

最後は、恒例お楽しみ抽選会。道の駅で販売されるイカ生干し、塩辛、ワカメ、メバルなど地元特産品の詰め合わせなどが用意され、参加者たちは、自分の抽選番号が呼ばれるよう願っていました。

参加者らは「天気がよく、気持ちのいい汗をかくことが出来た。景色だけでなく、波の音も聞こえるので、歩いていて気持ちよかった。お昼ご飯も美味しかった。また来年も参加したい」と話していました。

## いざというときに備えて

小泊漁港で海難救助訓練

海難事故発生時の迅速な対応、関係機関との連携を強化することを目的に、中泊町沿岸訓練実施隊が6月16日(金)小泊漁港で海難救助訓練を実施しました。

開会では、同隊の成田代表が「毎日の操業中、参加していただきありがとうございます。大きな事故はいつ起こるか分からない、この訓練が大きな成果になることを期待しています」とあいさつしました。

この日の訓練は、船舶間での衝突事故発生によって、海中転落事故と火災事故が起きたという設定で行われました。

対策本部の設置に続き、漂流者の救出訓練では、こども園こどもの子どもたちが心配そうに見守る中、海中に転落した乗組員2人を引き上げ、救助しました。無事救助された姿をみて、子どもたちはホッとした顔を見せていました。その後、船舶火災消火訓練では、煙があがる船に向かって放水訓練を行いました。

また、漁協職員や婦人部による応急手当訓練、AEDを使用した心肺蘇生法、救命胴衣着用推進宣言をし、安全操業への意識向上を図りました。

